

JCFIA JAPAN COMMODITY FUTURES INDUSTRY ASSOCIATION

発行所 日本商品先物振興協会 〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町9-9 ☎(03)3664-5731 FAX(03)3664-5733 http://www.jcfia.gr.jp/

先物協会ニュース

JCFIAマンスリー

怒心

(中澤忠義 東京工業品取引所理事長)

怒心をゆるやかにして許す意

FUTURES PLAZA

先物取引弁護士グループ研究会
 弁護士としてこの業界の裁判を扱うようになってから約二十年が経ちます。初めの頃、大先輩の先生から御教示を受け、大阪の取引所が中心となって、昭和十四年頃商品業界の論文や判例の集大成事業を行った事実を初めて知りました。

平成二年頃、シカゴを訪問し、CBOT、CFTC、NFA、FCM等を訪問し、各法務担当責任

高く信用性の高い市場を確保し、併せて投資信託等業人の委託者向けの商品を開発し、気軽に資産運用を行い、広く投機を奨励するよ

農産物を買って国内に備蓄倉庫を造り、その運用を信託銀行に任せ、信託銀行が二年物のモーゲージを発行し、それを国民に売り出し、商品業界もこれを受け渡し

供用品に指定したら、国民

今こそ大改革の断行を

先物取引弁護士グループ研究会 弁護士 浅井 洋



が投機取引に参加出来るのではないかと素人ながら考えたことがあります。しかし、許認可が多岐にわたるため、実現不可能と分かり非常に残念な思いを致しました。

現在、世界の工場は中国になり、今後二十年間は中国が世界の工場であり続けると予想されます。日本が生き残るには、サービス産業

の生産性を三倍に上げる事しかないと言われています。これを踏まえて、今後、十年の間に公正で利便性が高く信頼性の高い取引所制度が確立されなければならぬと思います。今こそ、大改革を断行すべき時だと思っています。今年、業界の方々から業界改革のご意見を伺って回りたいと考えております。

継続こそ力 部会活動①

関東地区人事部会

三百五十校から入社
 四地区(関東、中部、関西、西日本)の人事部会(合計会員数七十二社)によるアン



北辰商品 沼野 専務 過藤 会長

豊商事人事部次長は、こう振りかえる。「一年で失墜した信用を取り返すには十年

全国の大学ときずな強める 大卒採用に着実な成果 離職率改善めざして25周年

現在、商品先物業界には一定の目標を掲げて有志が自主的に活動している部会が四種類ある。いずれも一継続は力なり」をモットーに着実に活動している。そこで、その状況を報告しよう。第一回は関東地区人事部会。

今年もまたフレッシュマンが入社する季節を迎える。商品先物取引業界には毎年二十人以上の大学新卒が入ってくる。この大学新卒採用に長い間努力して、成果を挙げつつ、今年で二十五周年を迎えるのが関東地区商品取引員人事部会である。

ケート調査(回答五十八社)では、平成十三年四月の大学別新卒入社実績は約三百五十校、約二千人(うち女子が約三百三十人)を数えている。今年も同じく同程度の入社が見込まれている。

昭和三十二年に発足

関東地区商品取引員人事部会の発足は昭和五十二年(一九七七年)。人事担当の部長、課長などが大学新卒採用に危機感を強め、業界をあげて大学側に働きかけようと、活動を始めた。発起人は丸静商事、カネツ商事、エース交易、岡藤商事、北辰商品、豊商事の人事担当者。全協連も巻き込んだ。発起人の一人だった沼野龍男北辰商品専務(当時は豊商事人事部次長)は、こう振りかえる。「一年で失墜した信用を取り返すには十年

平成6~14年の関東人事部会講演一覧

- 平成6/3 「民事介入暴力の対策について」 警視庁久松警察署 刑事防犯課長 麻生博
- 10 採用活動、部会PRなどの意見交換
- 11 就職セミナー 「政治・経済・雇用情勢と商品先物業界の将来」 経済評論家 三原淳雄
- 7/2 「若者一摩擦回避世代」 博報堂生活総合研究所 主席研究員 進藤一馬
- 10 就職セミナー 「私の考える就職・現在の社会変動と雇用問題」 ニュースキャスター 宮崎緑
- 11 「人事担当者の法的知識と実務」 弁護士 外井浩志
- 8/2 「96年採用戦線と新しい採用のあり方」 (株)ディスコ社長室長 林和雄
- 10 「営業社員の人事考課制度」 経営管理研究所 滝澤算織
- 11 就職セミナー 「先物経済の進展と商品先物業界のこれから」 経済評論家 落合莞爾
- 9/1 「マーケティングが採用を変える」 プロミス(株)人事部採用教育担当部長 小田明雄
- 10 「学校・学生側からみた商品取引業界」 多摩大学経営情報学部教授 河村幹夫
- 11 就職セミナー 「将来性豊かな商品先物業界」 大阪新聞社長 佐藤一段
- 10/1 ベストセラー「7つの習慣」より 日本教育経営学会 新里聡
- 10 「マスコミからみた商品先物業界の今後」 日本経済新聞商品部編集委員 林邦正
- 11 就職セミナー 「会社人間から仕事人間へ」 (株)フィスコ取締役チーフアナリスト 田中勝博
- 11/1 「勝つための採用戦略を探究する」 (株)人材総合研究所代表取締役 高橋順
- 10 「人事労務の実務について」 中央大学・明治大学講師 山崎文夫
- 11 就職セミナー 「バブル再来」 (株)フォリオ専務取締役 山本伸
- 12/1 「活かしていますか、女性社員」 (株)ビー・ステーション代表取締役 江尻みどり
- 10 「新人研修の企画と効果的な進め方」 安生ビジネスコンサルティング(株) 鎌田英彬
- 11 就職セミナー 「就職に活かせるFPのノウハウ」—今求められる人材像 (株)ファイナンスプランナーズ代表取締役社長 川田規人
- 13/1 「新世紀の経済見通し」 白岡大学教授・国際エコノミスト 今井滋
- 10 「今後の企業の採用活動について」 (株)人材総合研究所代表取締役 高橋順
- 11 就職セミナー 「日本型経済システムの再構築」—企業活性化と人材育成 名古屋学院大学大学院教授 羽路駒次
- 14/1 「リスクマネージメント・セミナー」 (株)ビジネスコンサルタント代表取締役 遠藤隆一

かかるとの覚悟でやった。手分けして青森から鹿児島まで大学を訪ね歩いた。大学の就職担当者との定期的な接触の場として「大学懇談会」もスタートさせた。講演などもあったが、懇親パーティー中心だった。しかし、なかなか参加大学数が増えず苦労したという。

商取業界が大学新卒を採用するようになったのは昭和四十年代初めの不況期か

大量離職で信用失う
 こうした大量採用が大量

ら。四十二~四十四年ごろは、大学に求人を出すと、たくさん応募者が来て、百人でも採用できた。大手取引員は、代々木の青少年オリンピックセンターでよく合宿研修をやったが、三四社がかち合って、二百~三百人が泊っていたこともあった。

昭和三十年代までは、毎週のように新聞に求人広告(二十歳以上の条件)を出し、土日に面接して採用。翌週には外務員講習会を受けさせ、月二回あった外務員試験に合格させ、すぐに現場に投入していた。簡単に採用できるものの離職率が極めて高いのが悩みで、この状況は、大卒中心になってもあまり変わらなかつた。「なんとかしらないといけない」と、人事担当者が

活動内容を一変
 日本経済のバブル崩壊後、人事部会の活動も大きく変えた。平成六年(一九九四年)以降は、大学と商取業界の就職関係者が一堂に会する就職セミナーをメインイベントとし、人事担当者のための講演と年一回ずつ開く他の部署の社員にも役立つ講演を組み合わせた。それまで行っていた大学の就職担当者とのゴルフ会(年一回)、大学の先生を囲んでの飲み会(同)などは人事部会としては一切やらないことにした。

また、年に一回は採用活動、採用目標人数、新人研修、年俸制、給与・人事制度・福利厚生などについてのアンケートを実施、業界の現状把握に努めている。それによって自社を向上させる動機が生まれてくる。それでも、大卒の内定歩留まり率は業界平均で五〇%前後とみられ入社三年後に残っているのは十人のうち二人程度。情報開示義務のある商品取引員七十九社の従業員数約二万一千人、登録外務員数約一万三千人の業



大盛況の就職セミナー

源泉になるだろう。(泉)

先物春秋

木曾路を旅するひととはJR南木曾駅のそばで、木曾川にかかる全長二百四十七メートルの桃介橋に差し掛かる。

桃介が発電所建設の資材を運ぶために架けた橋で、たもとに桃介が愛人川上貞奴と暮らした別荘がある。いまは「福沢桃介記念館」として一般に公開され、明治の投機界に巨歩を残した怪物の息吹を漂わせている。福沢論吉の娘ふさと結婚した桃介は、病氣療養のつれづれに始めた相場で投機の醍醐味に触れ、日露戦争の大相場で巨利をつかむ。相場師からやがて電力王に転身するが、後年、こう述懐している。「相場で儲けた金は、実に借してたまらぬ。一銭といえども無駄にしたくない。これに予が心血を注いで得た金だからである。世間では相場で儲けた金をアブク銭だという。予はまるで反対だ。桃介は、利子や配当は儲けず、儲けた金で大嫌という。血の小便を流し、文字通り心血を注いで手に入れた金に二六%もの税金がかかる今日の税制を知れば、目をむき出すに違いない。税の要諦はプロポジション(釣合い)にあるという。リスクの伴わない利子・配当インカムゲインが二〇%で、ハイリスクと闘って勝ちとった危険差益(キャピタルゲイン)が二六%というのは、どうしても釣り合わない。小泉首相は税制改革の断行を宣言し、正直者が馬鹿をみる言いが、同時にリスクに挑戦する勇者を支援する税体系を目指してもらいたい。それが日本に活力を呼び戻す源泉になるだろう。(泉)